

編集後記

次期システムが決まったようである。これまでのHIPAC、OKITAC、ACOSとメーカーの看板でもあった汎用機名がついになくなりました。計算サーバ、ファイルサーバのようにセンターのシステムというものは一連の計算機群のようです。これらが高速ネットワークで接続されているのでユーザから見るとセンターは地下にあっても海外にあっても、絵空事を扱っている限りにおいては弘前になくてもいい時代になりました。ほんの少し前までは、大計に頭を下げた使わせて貰っていたのが全国の大学にそこそこの計算機が入ったお陰であまり頭を下げなくて済むようになりました。

只、このまま絵空事ばかり扱っていると、また、全国に同じようなシステムがあるのは無駄だ。ネットワークは何のためにあるのだと言われて取り上げられる時代が来るかも知れません。更なる総合情報処理センターの利用と支援をお願いします。

遅ればせながら、全学の広報委員会で「弘前大学ホームページの管理運用に関する申合せ」が制定され、公式のホームページが運用されるようである。現在、大多数の国立大学がホームページを持ちその内容は英語版はこっちというように外国人を隔離してしまっている。せめてグラフィックスで漢字を併記して、無理にでも漢字を視覚に入れさせるぐらいのゆとりを期待します。国際化とは、英語しか読まない英語圏の人たちに常にそれ以外の社会もあることを認識させてからと思いますが如何でしょうか。

(未だに津軽弁が通じないコンプレックスが……おっと)

弘前大学総合情報処理センター
教育広報専門委員会

伊藤 守 幸 (人 文 学 部)
太田 誠 耕 (教 育 学 部)
三上 聖 治 (附 属 病 院、委 員 長)
市村 雅 一 (理 工 学 部)
張 樹 槐 (農 学 生 命 科 学 部)
丹波 澄 雄 (総 合 情 報 処 理 セ ン タ ー)